

# ダイヤモンドシティがめざすのは、 まちの個性を輝かせ、 ともに未来像を描けるSCの創造です。

株式会社ダイヤモンドシティ  
代表取締役社長

鯛 洋三



1969年の設立以来、私どもダイヤモンドシティは、その経営理念である「私達は、商業専門ディベロッパーのパイオニアとしての誇りを持ち、地域社会の発展とお客さまの生活文化の向上に貢献する企業として、ショッピングセンターの創造に挑戦し続けます。」に忠実な事業活動を展開し、時代とともに変化する地域社会やお客さまの動向を見据え、常に時代の一步先を行く文化的な生活の実現や地域社会の発展に貢献してまいりました。

そして現在では、単に商品・サービスを提供するだけでなく、心から豊かさを実感でき、地域にとって欠かすことのできない“まち”機能を有した“21世紀にふさわしいSC”の実現をめざしています。

## 中期経営計画の達成とSCの進化

まず、私どもの業績についてお知らせいたします。現在私どもは、“21世紀にふさわしいSC”の実現に向けて、「中期経営計画(DC100)」(2005年3月～2008年2月の3カ年)を掲げ、力強く推進しております。その2年目である2007年2月期は、営業収益472億円、経常利益131億円、当期純利益75億円となり、2006年2月期に引き続き、すべての目標を達成いたしました。この「DC100」は、単に業績拡大だけを目標にしたものではなく、豊かな時間とゆとりのある空間を地域のお客さまに提供できるSCの新設、既存SCのさらなる魅力向上、サービスの質向上など、さまざまな目標を掲げております。

2007年2月期も計画通り、東京都の武蔵村山市に「ダイヤモンドシティ・ミュー」、大阪市の鶴見区に「ダイヤモンドシティ・リーファ」、宮城県の名取市に「ダイヤモンドシティ・エアリ」の3つのSCを新たにオープンいたしました。ニューオープンの各店舗では、すべてのお客さまに安全・安心・快適をお届けするために導入したユニバーサルデザインをさらに進化させ、新しい発想のアメニティを配したり、お客さまの声を直接店づくりに反映するしくみを設けるなど、さまざまな新しい取り組みがなされています。また、福岡県の「ダイヤモンドシティ・ルクル」では、地域のお客さまの志向に合わせた魅力向上を図るため、L.A.S棟の1階部分を全面リニューアルいたしました。

目下の業績の伸長は、SCの進化に向けて、着実な努力と改善を進めてきた結果であると確信しております。

## 地域に欠かせないSCであるために

「改正まちづくり三法」施行に向けて、行政・自治体の方々や事業パートナーなど、あらゆるステークホルダーの皆さまとSCのあり方について考える機会を持つことができましたが、そうした中で、改めてしみじみと感じますことは、SCというものは、やはり地域に望まれ、地域にとって欠かすことのできない存在にならなければ、存続があり得ないということです。

私どもダイヤモンドシティは、1970年に大阪府の東住吉に最初のSCをオープンさせてから40年近くになりますが、現在は全国で19のSCの開発・運営を手がけております。またこれまで進出した場所からの移転や業績不振を理由とした撤退は行っておりません。このことは、私どもが地域に根ざしたSCづくりを行ってまいった何よりの証と自負しております。

時代や地域社会のSCに対する要請が変化し続ける中、ダイヤモンドシティは常に地域とともに歩むことで、その存在意義を確認し、存続を許されてきたのです。

これは、単に事業計画を立て、数値目標の達成に努めただけで実現できることではありません。地域の皆さまが日頃ご不便に感じているのは何か、休日に家族でSCに行こうと思っていただけのものは何か、ご高齢の方が雨の日も安心して散歩できる場所を提供できないか、といったお客さまへの深堀を徹底してきたこと。そして、単に売り場をつくって物を置けばよいという安易な考えでなく、スタッフ一人ひとりが心からおもてなしする気持ちをもってお客さまをお迎えし、商品・サービス以上のものを提供しようと努めてきたこと。こうした地域住民の皆さま

との日々の積み重ねがダイヤモンドシティのCSR意識の原点であり、SCの経営の中心にあったことが、これまでの成長を支えてきたと実感しております。

### 成長の土台となるCSR意識の浸透

事業の拡大とともに、従業員およびテナントスタッフの方々も急激に増加しています。今後もダイヤモンドシティが成長を続けるには、積み重ねてきたCSR意識をすべてのスタッフにいかに関与させていくかが鍵を握ります。ダイヤモンドシティのスタッフにとって、CSR意識は業務遂行上の基盤要件であり、事業活動の起点と言えるものです。そして、全社的なCSR活動を展開するには、個人の意識の向上とともに、部門や役職、立場を越えたダイレクトコミュニケーションの活性化が不可欠です。これらの狙いに具体的に取り組むため、2005年3月から、業務上の問題を横断的な視点から考え、組織全体で解決していくタスクフォース(TF)を設置し、「クレームゼロTF」「クロージング(閉店)TF」などの8つを始動いたしました。2007年2月期には「違反ゼロTF」など、9つを新たに設け、部門の問題解決ノウハウの全社レベルでの共有に大きな効果を上げています。

また、私を含め従業員は、植樹祭をはじめ各SCの地域密着イベントや、テナントによる愛するまちづくり推進のためのオーナー総会「シティボード」にも積極的に参加し、CSR意識の共有化と浸透に力を注いでおります。さらに、お客さま視点のおもてなしの心をダイヤモンドシティのすべてのステークホルダーの方々にもご提供できるよう、従業員のビジネスプロトコル、コミュニケーションマナー向上のための研修を企画しております。

このような従業員への啓蒙・教育をもとに、ダイヤモンドシティがCSR意識、遵法精神、モラル、マナーの面で真に優れた企業となることをめざしています。

### 2007年8月、新生イオンモールとしてスタート

“21世紀にふさわしいSC”の創造をめざし、地域密着型ビジネスを展開してまいりましたダイヤモンドシティは、今、大きな転換の機会を迎えています。

イオンモール株式会社との合併が決定いたしましたことをご報告させていただきます。2007年8月21日、“新生イオンモール”として両社が経営資源を統合することにより、立地開発力、テナントリーシング力、それぞれの培ったノウハウを融合し、国内のみならず海外への展開においても、より大きなシナジーが期待できるだけでなく、SCディベロッパーとしてのCSR活動を活性化する上で極めて有利な環境を整えることにつながります。このような恵まれた環境を生かすことで、より大きな目標に向かって飛躍できると確信しています。

今後とも、変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 目次

■ 特集1 「愛するまち」を、あなたとつくる。 . . . . .	2
■ 特集2 すべてのお客さまとともに . . . . .	4
■ 特集3 地域社会とともに . . . . .	6
■ 特集4 事業パートナーとともに . . . . .	8
■ トップ対談 . . . . .	10
■ トップメッセージ . . . . .	16
■ CSRレポート方針 . . . . .	18
■ マネジメント報告 . . . . .	19
ダイヤモンドシティの事業活動 . . . . .	20
CSR推進の原動力 . . . . .	22
マネジメントシステム . . . . .	24
CSR推進体制 . . . . .	26
■ 社会性報告 . . . . .	27
すべてのお客さまとともに . . . . .	28
地域社会の皆さまとともに . . . . .	30
事業パートナーの皆さまとともに . . . . .	32
スタッフとともに . . . . .	34
株主の皆さまとともに . . . . .	36
情報開示とコミュニケーション . . . . .	38
■ 環境報告 . . . . .	39
環境方針 . . . . .	40
SCの環境負荷について . . . . .	42
環境負荷低減目標と実績 . . . . .	43
環境への具体的な取り組み . . . . .	44
■ GRIガイドライン2002対照表 . . . . .	46

特集

トップ対談

トップメッセージ

CSRレポート方針

マネジメント報告

社会性報告

環境報告

GRIガイドライン

# CSRレポート方針

ダイヤモンドシティではCSR活動を、経営活動、事業活動に組み込んで対処しており、本レポートにおいては、こうしたCSRの特徴や具体的な展開をステークホルダーの皆さまにわかりやすくご紹介することに努めております。

## レポート概要

株式会社ダイヤモンドシティは、ショッピングセンター(以下SC)の開発・管理・運営を専業として行っています。本レポートは、その経営理念や事業活動について、CSR(企業の社会的責任)の観点からみた現状や課題等を報告するとともに、ステークホルダーの皆さまとの双方向コミュニケーションの活性化を促し、より良い経営と事業活動を実現していくことを目的に制作いたしました。

SCの開発・管理・運営という事業は、経済的な価値の向上のために固有の強みやノウハウを必要としますが、事業展開の大前提としてステークホルダーの皆さまからの“信頼”がなくてはならないものです。そのためダイヤモンドシティでは、CSR活動を企業活動の中のひとつの項目として扱うのではなく、すべての経営活動、事業活動に組み込んで対処しています。本レポートにおいては、こうしたダイヤモンドシティのCSRの特徴を、

できるだけわかりやすく紹介することに努めました。

また、昨年度版CSRレポートを踏まえましてユニバーサルデザインの観点から、誌面構成、写真の掲載、文字の配置など、見やすさ・読みやすさにも配慮いたしました。

ステークホルダーの皆さまにとってより客観的な視点からダイヤモンドシティのCSR活動の現状や課題等をご理解いただくため、本レポートの作成にあたっては、持続可能性報告書の国際的なガイドラインであるGRI「サステナビリティリポーティング2002」を参考といたしました。なお、記載内容の正確性については第三者保証を受けておりませんが、記載項目に該当する部署における複数名による確認とともに、本レポート作成担当部署(コーポレート本部)による収集・集計方法および記載内容の確認を行っています。

## レポートの範囲

### ■対象

お客さま・株主・投資家・テナント・従業員および家族・全国のダイヤモンドシティSC近隣住民の方々・行政・NPO・NGOなど、すべてのステークホルダーの方々。

### ■対象期間

本レポートは、2006年度(2006年3月から2007年2月まで)を対象期間としておりますが、一部情報につきましては発行日直近の2007年5月までのものを掲載しています。当期間におきましては、3SCを新規オープン、1SCをリニューアルオープンしております。

### ■次回の発行について

株式会社ダイヤモンドシティは、イオンモール株式会社と合併することが決定しております(存続会社はイオンモール株式会社、効力発生日は2007年8月21日)。新会社となりましても、ダイヤモンドシティのCSR活動への姿勢が変わることはありません。その取り組み成果は、新会社よりご報告させていただきます。